

令和3年度 第1回高岡市総合教育会議 会議録

I 日時 令和3年8月10日（火）午後7時～8時20分

II 場所 高岡市役所3階 庁議室

III 出席者 高岡市長 角田 悠紀
高岡市教育委員会
教育長 近藤 智久
教育委員 長尾 順子
教育委員 長谷田 祐一
教育委員 森 美和
教育委員 土田 一清

事務局関係

総務部

総務課長 長谷川 聡

総務課副課長 釣 和洋

教育委員会事務局

教育次長 杉森 芳昭

教育次長・学校教育課長 杉山 智充

参与 川辺 勝治

教育総務課長 中保 哲憲

生涯学習・スポーツ課長 上田 浩樹

学校教育課主幹・副課長 岩田 正弘

学校教育課指導主事 豊原 正貴

教育総務課副課長 江尻 典世

教育総務課係長 水上 暁

IV 傍聴者 0名

V 協議の概要

1 開会

・市長あいさつ

2 協議事項

- ・ 高陵中学校区統合小学校の校名について

【長尾委員】

「高陵」は、誇りと憧れを感じる校名。多くの校名の候補から、この校名を選択したのは、良かったと思う。

【土田委員】

地元の方々の意見をしっかり聞いたうえで、「高陵」という校名になったということなので、何ら問題はない。

【長谷田委員】

地元の方々が入っての話し合いで決まった校名なので、異論はない。

【森委員】

地域の方々の意見を吟味し、皆さんが納得している校名であれば問題はない。

【市長】

地域住民と十分議論を重ねられたこと、「高陵」に地元の皆さんが馴染みあること、学校は地域シンボルであることなどを十分配慮されて、校名が「高陵小学校」となった。委員の皆さんの意見も特段、問題ないとのことであり、総合教育会議として、高陵中学校区の統合小学校の校名を「高岡市立高陵小学校」と決定することでよいか。

【全委員】

異議なし。

【市長】

それでは、「高岡市立高陵小学校」で決定する。

今後、条例改正などの所要の事務手続きを進めていきたい。今後とも、統合に向け、地域住民の皆様からご意見をいただきながら、合意形成に注力していただきたい。

来年度に開校する統合小学校が、地域の期待に応え、魅力と活力あふれる学校となるよう、引き続き準備を進めていただき、子どもたちが将来に夢や希望を描ける教育の充実に向け、教育委員会の皆さんには、着実に取り組んでいただきたいと思います。

【教育長】

教育委員会としても、今後も地域の皆様に丁寧に対応し、準備を進めていきたい。

3 報告事項

(1) 学校の再編統合の進捗状況について

【長尾委員】

それぞれの地域にそれぞれの課題がある。高陵中学校区や高岡西部中学校区では、何が課題か。

【事務局】

高陵中学校区の統合小学校は、喫緊のこともあり、子どもたちや先生の交流は計画的に行っている。コロナ禍のため、オンラインなども活用している。教育計画は、1つの学校になった時の地域の要望も取り入れて計画的に作成している。通学路については、地域の皆様の意見や関係の方々との通学路の選定を進め、整備も計画的に進めている。

高岡西部中学校の統合小学校は、生徒会を中心に3校の交流を進めている。3校あるため一堂に集まることが難しいので、オンラインを活用している。通学路は、それぞれの校区で今、見直しをしており、今後の統合を見据え、PTAの皆さんで安全点検も進めている。

次に、ハード整備についてであるが、高陵中学校区統合小学校は、令和8年4月の開校を目指して整備を進めることとしており、現在、基本設計に取り組んでいる。高岡西部中学校区統合小学校は、最終的に令和9年4月の開校を目指しているが、その前段階の令和6年4月に小学校の統合となる。それぞれ開校に合わせて設計等の準備を進めている。

(2) G I G Aスクール構想の進捗状況について

【長尾委員】

この1年でG I G Aスクール構想がここまで進んできたことに敬服する。今後もG I G Aスクール構想を進めることでどういう可能性が引き出されるのか。

【事務局】

長期目標を掲げているが、具体的には、国際的に高岡の子どもたちが遅れを取らないようにしたいことが目標である。我々がやっているように、子どもたちが考えながらキーボードを打つことができるようにしたい。

また、先生方で端末の操作が苦手な方でも研修を受けることで、「これならできる。」と思ってもらえる研修プログラムを築きあげてきた。先生方にワンノートの基礎的な使い方の研修を行ったところ、楽しそうに研修を受けていた。まさにこれが高岡版ワンノート研修である。現在、拠点校で研修を行っているが、11月には全市内へ展開をすることを考えている。今年度中にはすべての先生が何らかの形でワンノートを使っている状況にする。

高岡モデルの研修を全国展開し、我々と同じ自治体の皆さんにも使ってもらえる研修プログラムとなるよう取り組んでいる。

【市長】

ものづくり・デザイン科にも端末を使っているのでは。

【事務局】

ものづくり・デザイン科では、端末を使ってデザインの勉強をしている。

【市長】

高岡の特色ある授業に端末を使用することは他ではできないことであるし、端末を使用することで、より広がった授業となると思うので、教育委員会の皆さんには、いろいろと検討いただきたい。

【長谷田委員】

端末を使う子どもは使うが、興味を持たない子は端末を進んで使用しないのではないかと思う。デジタルアーカイブの333のコンテンツは、高岡市教育委員会で作ったものなのか。また、実際の授業動画はあるのか。

【事務局】

夏季休業では、3年生以上の持ち帰りを実施した。学校によっては、1、2年生で持ち帰りを実施したところもある。学校からはオフラインでもできる課題を出すとともに、家庭での端末の接続についても確認している。家庭でアーカイブを見ることも可能である。

アーカイブは、1単元を15分として、市内の教員自らが作成している。アーカイブを作った理由は、先生方が子どもたちの実態を知っているので、どこでつまづくのか、どこが学習活動の肝となるのか分かっているからである。また、先生が動画に出ることで、不登校の子供に先生の姿を見せる意味合いもある。来年度にかけて小学校1年生から中学校3年生までの全教科全単元、約1000の動画を作成するとともに、先生の指導力を向上させるねらいもある。

【市長】

関心のない子に関心を持たせるためには、夏休みの宿題の出来を見てもらうことが非常に大事である。関心のある子とない子では、出来が違ってくると思うので、先生にはしっかり確認をしてもらい、関心のない子にいかにして関心をもってもらえるか検討いただきたい。

【長尾委員】

デジタルアーカイブを作った終わりではなく、今後どうやって活用していくかが重要である。

【市長】

アーカイブは授業で使える環境にあるのか、家に持ち帰った端末で見れるのか。

【事務局】

学校でも、家庭でも使える。自習用である。動画は、単に授業を撮っているのではなく、15分の動画でポイントを凝縮したものとなっている。

【市長】

コロナの家庭内感染等が進み、2週間、学校に登校できない場合も想定される。このアーカイブを使うなどして、子どもたちの勉強が遅れないよう対応していただきたい。

【長谷田委員】

I C T支援員は、何人配置されているのか。

【事務局】

I C T支援員は今年度から導入しており、管理者も含め4人配置し、市内の学校を巡回している。

【市長】

国の目標は何人か。

【事務局】

4校に1名である。今後、拡充していきたい。

【市長】

授業の生配信についての教育委員会の考えは。

【事務局】

保護者の要望があり、クラスの子供たちのプライバシーに配慮しながら配信することは可能である。実際に配信を行った学校もある。

【森委員】

何年生で端末を手にしたかということが端末の利用に大きく影響を与えていると思う。小学校低学年で端末を使用し、ゲーム感覚でキーボードを入力する楽しみを覚えた子どもの方がキーボード入力早い。中学生で端末を手にしても、インターネットで検索するのは早いですが、キーボード入力で自分の意見をまとめるとなると、たった数行の文章を入力するにも時間を要している。今の小学生が中学生になる頃には、今掲げている目標は、ある程度達成できると思うが、現在の中学生には、端末を使用すること、入力することの楽しさを教える必要があると思う。中学生にとっては、勉強のための端末になっている。パソコンに対しての恐怖心や壁を取り払うような対策が必要と考える。

【市長】

今後、数年間は出てくる課題と意識しながら、子どもたちが楽しみをもって、キーボード入力ができるよう、特に数年で卒業する中学生にはケアする必要がある。

【土田委員】

これまでの説明の中で、「国際的に遅れをとらない」「他の自治体のモデルになりたい」との発言があったが、説明資料にこの文言を明示し、目指すべきところを常に共有化していくことが重要と考える。また、事業をやることによるメリットを明示してもらえば、自分たちも多くの仲間に市の取組みをPRできる。

【市長】

「国際的に遅れをとらない」「教職員への研修が高岡独自で全国に広げていきたい」とあったが、ぜひとも発信していける体制を作るためにも、資料に記載し、また教育委員会だけでなく、教育委員や市民の皆様の方力も借りながら、高岡の良い所を発信していければいいと思うので、ご協力お願いしたい。

(3) 地域運動部活動（地域スポーツクラブ）について

【土田委員】

教育委員会では、できない理由を考えるのではなく、どうしたら高岡が良くなるかというところを前提に取り組みを進め、地域スポーツクラブのように、国の政策が出てきたら積極的に手を挙げ進めてきている。失敗はあるかもしれないが、高岡モデルを発信できるように、今後も頑張ってもらいたい。地域スポーツクラブは、先生の働き方改革にもつながる事案なのでしっかり取り組んでほしい。

【長尾委員】

実践研究の実施期間は10月から2月だが、その後はどのようなスケジュールで、どう広げていくのか。また、国の指定は1年間だけなのか。

【事務局】

研究指定を来年、再来年もいただきたいというのが、高岡市や指定を受けた自治体の願いであるが、どうなるかわからない。持続可能で来年以降もできることを念頭に、今年やろうということで、専門性の高い競技団体の力を借りた。これが高岡モデルのスタートである。現在、競技団体でいろいろと検討されている。

【市長】

国の支援がなくなってもできるように進めているのか。

【事務局】

指導者の指導料や会場使用料について、各競技団体が負担するのか、参加者が負担するのか、また、国に補償してほしいという要望は行うなど、今後どのようにしていくのかは、今年1年取り組みを進める中で、将来的にどうするのか検討していきたい。

【長谷田委員】

部活動以外の運動に取り組んでいる人が増えているので、広く競技団体と協議を進めてもらいたい。

【森委員】

地域スポーツクラブは、1つの競技に活動場所は1つか、それとも複数の活動場所があるということか。あるいは、学校の部活動に加え、土日の活動場所を作ろうとしているのか。

【事務局】

部活動が学校教育活動から切り離された場合は、委員指摘のスポーツクラブがいくつも立ちあがるかもしれないが、今は、あくまで部活動として残っているので、部活動に加えて、充実した活動が提供できないかということである。部活動のガイドラインでは、平日（月～金）は1日休み、土日は1日休みとなっているが、もっと活動したい子どもたちに場を用意しようというのが、地域運動部活動である。

【森委員】

指導者は、子どもたちに教えたいという気持ちから競技団体を立ち上げ、忙しい時間を費やして活動している。地域スポーツクラブにおいて、指導員を確保することが難しい課題ではないかと思う。

【市長】

地域スポーツクラブにより、国吉義務教育学校の野球部のように、存続が難しくなりつつある部活動が他の学校と合同で行うことで、部活動の経験を積む機会を残すことができる。今は、部活動に加えて、もっとやりたいという子供たちのために地域スポーツクラブを進めていると認識している。

【事務局】

自分の学校にいながら、その競技を続けていくというのが、今、高岡市が考えていることである。

【市長】

子どもが少なくなることで部活動の種類が減ってきている。いかにして、どの学校にいても様々な競技に触れ合う機会を持てるかということを探している状況と認識している。競技団体の皆さんにもご協力いただきながら、子どもたちのスポーツの機会をより多

く作ってあげれば良いと考えている。

【教育長】

先日、高岡西部中学校と国吉義務教育学校の野球部の合同チームの表敬を受けた。国吉義務教育学校は数名しか部員がいないため、単独校では試合ができないが、合同チームとして一緒に力を合わせ、県代表を勝ち取った。

地域スポーツクラブ、GIGA スクール構想、学校の統廃合、小中一貫校の充実など、子どもたちにとって、より良い教育環境をどう構築していくのか、今後も知恵を出し合いながら、皆様の協力も得ながら進めていきたい。